

通常の学級における包摂力のある好事例

【キーワード】	他者とのかかわり 自分の気持ちへの気づき
【学校、学年】	高等学校 【 2 】年
【状況、様子 等】	<p>○学級の状況等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の気持ちを考えない言動や、自己肯定感の低さが目立つ生徒が多く、これまでの学校生活で身につけておくべき社会的スキルが十分に育っていないのではないかと懸念していた。 ・一人の生徒が自傷行為の話をする「わかる」「自分もやった」など肯定的な反応が多く、否定的な意見は見られなかった。 ・生徒同士の交際から SNS のトラブルに発展するケース（相手の事情を考慮していない内容や時間に LINE をするなど）が出てきたので、クラスでソーシャルスキルトレーニング（以下 SST）を実施するべきではないかと思い、巡回相談を依頼した。
【対応・工夫】 支援、 合理的配慮、 基礎的環境整備、 学級経営、 支援体制 等	<ul style="list-style-type: none"> ・SST 実施に向けて、担任が自分なりに SST のイメージを持ちたいと思い、特別支援学校高等部の SST の授業参観をした。「あたまと心で考えよう SST ワークシート思春期編」を活用したコミュニケーションスキルを身につける自立活動の授業参観をした。（支援体制） ・ホームルームの時間を中心に1回20分程度、全15回実施する計画を立てた。内容は、生徒の実態を考慮し、高2までに身につけてほしいと考える内容をピックアップした。（学級経営、キャリア教育） ・モデル化されたものを使った方が、生徒全員が安心して取り組めると思い、授業の流れは、ワークシートの内容をそのまま使用した。（基礎的環境整備） ・生徒が自分の考えを話しやすいように、まずはグループで出し合っグループの意見として全体で発表するようにした。最後にワークシートに記入する時間を設けて、それぞれの考えを集約するようにした。（基礎的環境整備） ・生徒の考えを否定しない態度を心がけた。（支援）
【結果、変容 等】	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期までの授業を終えて、印象に残ったこと、自分が変わったと思うことなどについてアンケート（GoogleForm を使用）実施。【以下、感想：「いろんな気持ちがあることがわかった」、「もっと考えて行動したいと思った」、「怒りの場所（どんな時に怒るのか）がわかった。（複数意見）」、「親切になれた」、「相手の気持ちを直接聞けるようになった（複数意見）」、「人との距離感を考えるようになった」、「相手の気持ちを大切にしようと思うようになった」】 ・「今回の学びが将来役に立つと思うか」という質問に対しては、約7割の生徒が「そう思う」、約3割の生徒は「わからない」と回答した。 ・集団活動が苦手な生徒が数人おり、遅れて参加したり、途中で教室の外に出たりすることがしばしばあったが、回数が減ってきた。